

葉集を読む

松岡 隆子

見えぬもの追うて灯す送盆

矢作 裕子

送り火が消えると闇が一段と深まる。闇の向こうに精霊の影が見えるような気がしてその影を追うように灯りをつける。お盆でこの世に戻ってきた精霊をたった三日でまた送り返さなければならぬ送盆はことに寂しい。

《茄子の馬胡瓜の馬も畑のもの》。茄子も胡瓜も夫の遺してくれた畑のものだ。夫と共に耕す畑仕事は楽しかった。矢作さんの夫恋の詩は永遠に続く。

いささかの余命に秋暑極まりぬ

高野 達子

いささかの余命とは何のその、八月号の巻頭に輝かれた高野さんは御年93歳、秋暑を振り払ってのご活躍に瞠目する。先月号の「作句の窓」の文章も素晴らしかった。僅か一字の直しにも勉強になったと礼状を下さる。謙虚で礼儀正しい方だ。卒寿を過ぎると《いささかの余命》と自然体で受け入れ

ることが大切なかもしれない。見習いたいと思う。

秋風鈴この淋しさのいつくより

河本 順

同時作の《遺されてつくづく独り法師蟬》に夫君を亡くされたことを知った。お悔やみの電話をかけた。喪失感はまだにも大きくまだ追悼の句は詠めないとと言われる。秋の風鈴はただでさえ淋しい。その音色に淋しさは募るばかりである。淋しさを真正面から受けとめて俳句に詠むにはもう少し時間が必要なようだ。時間がやさしく過ぎていつてくれることをお祈りする。

入口に向日葵コインランドリー

西島 美晴

入口の向日葵につられてちよつと覗いてみたコインランドリー。中は綺麗で清潔な感じだ。洗濯から乾燥までノンストップで60分という。雨続きの時など一気に洗濯物を片付けるために利用する人も居よう。毛布や羽毛布団や薄手のカーペットなども洗えるという大型の洗濯機は便利そうだ。ペット用品専用の洗濯機も置いてある。入口の向日葵を描くことでモダンなコインランドリーを印象付けている。

八月は印度木綿の肌ざはり

山崎 和音

八月は初旬に立秋があるが秋とは名ばかりで一年で最も気温が高く暑い日が多い。暑い時の装いは吸湿性のある木綿に限る。中でも世界で最も暑い国のインドで生まれた印度木綿は最高だ。その肌触りは八月の暑さに耐えうる最たるもので